「おはよう」ニュース９００号の闘い

郵政ユニオン香川支部　須藤　行彦

私たちは、「権利の全逓」と言われた、職場に根ざした労働運動の伝統を引き継ぐ労働組合として、２００４年２月１日に「郵政労働者ユニオン香川支部」を５名の仲間で立ち上げました。翌日に結成趣意書をニュースにして早朝配布しました。

結成、「郵政労働者ユニオン香川支部」趣意書

２００３年12月に開催された全逓第58回臨時全国大会は、「全逓」という組合名を捨て去り、公社にふさわしい「日本郵政公社労働組合」に変更し、労資協調、労資一体論的組織に衣更えすることを決定しました。これは思想的右傾化だけでなく、労働組合の存在意識をも否定する機構「改革」であり、営業推進、施策推進を全面展開する組織への変更以外のなにものでもありません。

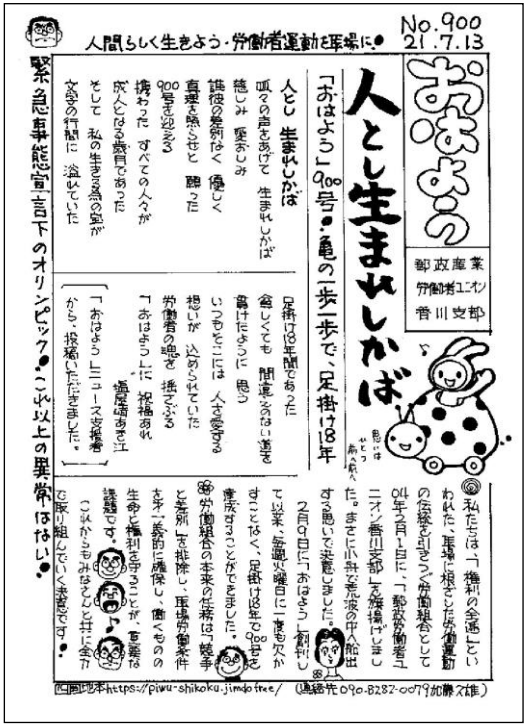
労働組合の本来の任務は、「競争と差別」を排除し、人間らしく働きつづけ生きつづけられる職場労働条件を第一義的に確保し、働く者の権利を守ることが、重要な任務です。このまま進めば近い将来、戦争に賛成する「産業報国会」的労働組合の存在になりかねません。

私たちは、全逓労働運動が今日まで果たしてきた役割と「権利の全逓」と言われた、職場に根ざした労働運動の伝統を引き継ぐ労働組合として「郵政労働者ユニオン香川支部」を２００４年２月１日に結成しました。まさに小舟で荒波の中へ船出する思いで決意しました。

私たちは、粘り強く話し合いを大切にし、より多くの皆さんのご理解とご協力を得て、大きく育てていきたいと考えています。私たちの決意に賛同してくださるよう、心よりお願い申し上げます。

「おはよう」ニュース第１号

翌週の２月９日、「おはよう」ニュース第１号では、「２月１日、高松市の加藤宅に結集した17名の熱気は、



正しい労働運動を自分たちの手でつくりあげる連帯意識と喜びにあふれていました。」と誇らしく、「やると決めたらやるぞ～」と決意を新たにしていました。

2月15日には、「香川支部結成レセプション」を全国から33名が結集して盛大に開催することができました。市原芳樹さんからは、「労働者としての自覚と誇りを内に秘め、階級的労働運動の再構築を見据えた、真に勇気ある決行、心より連帯の敬意を表します」との激電が届きました。以来、毎週火曜日に一度も欠かすことなく、高松中央郵便局と高松南郵便局での早朝配布行動を先輩たちの力を借りながら続けてきました。今年の7月13日に、17年6ヵ月で記念の900号になりました。今年2月、郵政ユニオン第8回機関紙コンクールで「優秀賞」もいただきました。これまで100号ごとに祝賀会を開催してきましたが、コロナ禍で今回は断念しました。900号記念CDは、広島の吉井信夫さんに作成していただきました。感謝です。

郵政民営化による労働運動の解体攻撃

07年10月1日、郵政民営化が小泉政権によって強行実施され、10月22日にはJPU（かっての全逓）と第二組合である全郵政と組織合併がなされJP労組になり、職場から労働運動が事実上消滅しました。その証が競争と差別を助長する「新人事・給与制度」導入の承認でした。一方では、働く者の「生命と権利」を守る郵政ユニオンへの期待が高まり、その後、組合員も拡大していきました。

35年ぶりのストライキ突入

２０１０年の春闘は、郵政21万非正規労働者の処遇改善と正社員化に向けての闘いでした。私も郵政ユニオンの組合員として、35年ぶりに３・18ストライキに参加しました。午前７時に集合した20名の支援の仲間たちは、早朝チラシ配布行動でアピール、８時20分より「スト参加者激励集会」を開催しました。労働者が闘いに立ち上がる以外に「生命と健康」は守れない、心が一つになったストライキ突入でした。

私たちは、13年８月19日、全労連「郵産労」と全労協「郵政ユニオン」が組織統合をはかり、「郵政産業労働者ユニオン香川支部」として新たなスタートを切りました。「おはよう」ニュースは、もちろん継続発行してきました。

『月刊まなぶ』の表紙絵に

14年10月号の『月刊まなぶ』表紙絵にもなりました。BabyPearl こと古屋昌子さんが、「お盆休みで帰郷した際、郵政ユニオン香川支部の『おはよう』ニュース（８月12日）配布を一日、父とお仲間のみなさんにくっついて、体験しました。毎朝起きてニュースを配布・・・一人ひとりに声をかけて、そもそもニュースを作成するのも大変な事だと思います。10年間続けている、その信念を尊敬です。『おはよう』の挨拶と笑顔とニュース。受け取ったみなさんも、気分がいいと信じます」と、記しています。

こんな励ましの声も

数年前の話ですが、早朝配布中に「２年間の購読料です」？　と、ある人から封筒をいただきました。帰りのバスで開けてみると、２万円が入っていたので驚きました。翌週の「おはよう」配布時にお会いしてみると、「今度他局へ転勤になります『おはよう』ニュースにいつも励まされました」とのことで、こちらが恐縮し、『おはよう』８００号記念のＣＤを受け取ってもらいました。また、「家に持ち帰って家族にも見せている」との声もあり大変励みにもなっています。退職者からのドリンク等の差し入れは度々です。

新たな決意、労働者として生きることに誇りを

私は、１９６７年、19才の時、三池炭坑労動組合結成20周年記念集会に参加する機会を得ました。三池のたたかいのなかで培われた労働者の誇り、家族ぐるみの絆、凛とした母ちゃんたちの生き方に、感動しました。

三池労働者運動の柱は、人間らしく働きつづけ生きつづけるために、反合理化職場抵抗闘争をたたかい得る主体性づくり、学習と五人組運動による相互討論、「長期抵抗」の精神がみなぎる仲間との信頼関係です。私の生き方に、大きな影響と指針を与えてくれました。

今日、労働者運動の退潮現象という厳しい情勢のなかでも、絶望しないで、たゆみなく学習と日常活動、仲間との助け合いを力にした逆流も生まれています。今、労働者一人ひとりが、どう生きるのかが問われています。「労働者の誇りと信頼」、これからの闘いの指針であり、大きな教訓だと自らに檄をとばしています。

（すどう　ゆきひこ）